

TRY



新しいカタチの 市P協をめざして

会長 舘 勇紀



令和2年度はコロナウィルスの影響で市P協の定時総会をはじめ様々なイベントや研修会が中止となっています。
中には40年以上も続いている「親と子のつどい」といった伝統のイベントも中止を余儀なくされました。
中止を残念に思った保護者や子どもたちもいたことと思います。
市P協としては、一連の事業の中止を受けて、改めて市P協が何のために活動しているのか考えるきっかけと捉えています。

今年度は、役員会や理事会において、市P協の会則に書かれている目的を全員で振り返り、市P協で実現できると嬉しいことを考えてきました。

川崎市PTA連絡協議会が発足してから70年(昨年度が70周年)も経つと、会則に書かれた目的が分かりにくいという意見も出されました。ここで改めて、市P協の活動の目的を時代にあったものに変えていく必要があるのではないのでしょうか。

共働き世代が増え、格差社会が広がり、PTA活動に昔と同じだけの時間を割くことが困難になっている中において、新しい市P協の目的を考えることで、今の保護者の実情に合うPTA活動のカタチがきっと見つかるはずです。伝統のあるイベントや現在の各種事業を否定するつもりはありません。

今までの活動がダメだったということではなく、より良い活動を考え、自分たちで取捨選択していく、という姿勢を大事にしていきたいと思います。

引き続き皆さまのご理解、ご協力の程よろしくお願いたします。

広報委員会より

PTA役員の人々に読んでみてほしい

「広報委員の活動は広報紙を作ること？」
市P協の目的を見直す流れの中で広報委員としても改めて、広報委員の活動の目的について考え、話し合ってきました。
誰に何を伝えるのか？ツールは紙なのかWebなのか？それとも他の方法があるのか？
そもそも、誰に何を伝えるかによって方法は違ってくるのではないだろうか。
今回わたしたち広報委員は、今の市P協での新しいPTAのカタチを模索している現状を各区の役員の方々、各学校のPTAの役員の方々にお伝えしたい、と考えました。
コロナ禍でできることは限られましたが、まずはやってみようということで、広報紙という形にはなりませんが、今までとは違うカタチにTRYしてみました。

どうだったでしょうか？

みなさんからの感想をお待ちしております。

■感想はこちらから

cpkouhou2020@gmail.com



中原区PTA協議会

会長 吉野 弘樹



令和2年度の活動は、「コロナウィルスとどう向き合うか」というところからのスタートでした。各校のPTAも予期せぬコロナ禍での運営に戸惑いもあったと思いますので、区P協としては情報交換の機会を創出し、落ち着いて各PTAを運営していただけるよう心掛けました。会議等に関しては、感染者数の推移、政府や川崎市の要請をふまえて、時にはリモートのみで、時にはリモートと集合形式とのハイブリッドで、役員会・運営委員会・会長情報交換会は、年度当初から滞りなく毎月開催できました。

中原区ではここ数年、各事業をゼロベースで見直していますが、今年度に関しては、規模の縮小等感染症対策を徹底した上で実施できるものは実施、それでも実施困難な場合は代替の事業を検討しました。代替事業の1例として、各校のPTA役員に向けた「PTA活動における適正化・活性化ガイドライン」の研修会を3回にわたり実施しました。中原区では継続的に「適正化・活性化」には取り組んでおり、実例として、早い学校では平成30年度より会員の入退会の意思確認を紙ベースで行うようになり、現在では約4割の学校で実施されています。

残念ながら中止となった事業もありますが、ギリギリまで実施への道を模索しました。年度当初に「中止」決定をしてしまうことも選択肢としてはありましたが、いつ収束するかもわからないコロナ禍にあって、開催を模索した上での中止は、来年度のコロナ禍での開催に向けての糧となることを願っています。

幸区PTA協議会

会長 浦山 利博



幸区PTA協議会の令和2年度もコロナ禍で幕を開けました。書面総会や歓送迎会など、年度初めの行事は、昨年度中に中止と決めました。新旧役員会顔合わせもネット越しに画面の小さい顔々を見ながら行い、アフターの懇親会もネット呑み会…何もかも初めての経験でした。呑み会は、やっぱりリアルがよい^^；聞くとところによると、リアルとネットのハイブリッド呑み会もあるとか。小グループ複数のリアル呑み会をネットで繋いでワイワイがやがや。各会場に多少の制約はあるでしょうが、アイデア次第。楽しめようと思います。

そう、こんなときこそ知恵を出し合い、こんなときだから出来ることをやりたいものです。年度当初の混乱が少し落ち着くと、過年度の振り返りからたくさんアイデアや改善案が浮かんできました。浮かび過ぎて、役員が多くがポカ〜んしたり、分かんない〜いと呆れられたり、掻き回し過ぎだと叱られたり…それでも、昨年度から引き継いだ要望書作成の企画や思い切った大延期のスケジュール。これを受けた幸区P協の名物「情報交換会」も気鋭の正副総務委員長の引っ張りで、こんなときだから出来ることの先頭を走り続けています。役員らも新人会長らの混乱に気配りし、当会ただいま奮進中!!今年2月には恒例の市議団懇談会を幸区長も来られて開催の予定です。学校PTAsが構成し活動資金を提供してくれている区P協。それ故にその本質は、学校PTAとは異なり、区内360度のネットワークハブであると思うところです。

本日は晴天なれど風強し。子らは元気に通学中!!

川崎区PTA協議会

会長 飯塚 昭子



今年度は、世界中が新型コロナウイルス感染症の影響を受け、「新しい生活様式」を求められています。川崎区P協も市P協同様、定期総会や様々なイベント・研修会が中止となり、不安と戸惑いを感じながらのスタートとなりました。このような状況の中、子どもたちを守るために、PTAとして何が出来るのか？を考えながら活動を進めています。

コロナ禍によってこれまでの色々なものが一気に押し流され、「テレワーク」や「リモート会議」のようなICTを利用した新しい形態が驚くほどの速さで普及し、とても便利な時代となりました。その一方で子どもたちが元気に登校する姿や、学校での出来事を楽しそうに話をすると、仲間と直接触れ合いながら社会で生きていくために必要なことをたくさん学んでいるのだなと感じます。省力化・効率化も大切ですが、直に人と接して肌で感じるコミュニケーションをし、楽しく活動することの大切さは忘れてはいけません。

今年度の事業におきましては、コロナウィルスの感染状況を見ながらPTA会員の安心・安全を第一とすると共に、改めてPTAについて皆さんと共に考えていきたいと思っております。